

令和 7 年度内閣総理大臣賞受賞者受賞理由概要
農産・蚕糸部門

地域とともに次世代へ紡ぐ、安定生産に裏打ちされた茶業経営モデル

○氏名又は名称 株式会社 宮崎茶房（代表 宮崎 亮）

○所 在 地 宮崎県西臼杵郡五ヶ瀬町

○出 品 財 経営（茶）

○受 賞 理 由

・地域の概要

西臼杵郡五ヶ瀬町は、宮崎県北西部の標高の高い地域に位置しており、傾斜面の多い環境で茶を含む様々な品目が生産されている。宮崎県は、茶葉を300度から400度程の高温の釜で炒って造られる希少な「釜炒り茶」の生産量日本一を誇る産地として知られるが、その中でも西臼杵郡は県内最大の釜炒り茶の産地である。

・受賞者の取組の経過と経営の現況

株式会社宮崎茶房は、平成 19 年に個人経営から法人化し、釜炒り茶を主に生産しながら、烏龍茶、紅茶等の様々な種類の茶について加工・販売までの一貫経営を行っている。品評会でも高い評価を受ける栽培・製茶技術と、多様な消費者ニーズに応える商品開発力を有しながら、近年は輸出にも取り組み、年間を通して安定した生産・供給体制を実現している。

・受賞者の特色

（１）多品種・高品質な茶で築く、持続可能な茶業経営

病虫害や霜害に強く、収穫時期が分散できる多種多様な品種を導入し、現在は総面積 14.8ha の茶園で 29 品種を栽培している。地域における先駆的な取組として有機 JAS 認証を取得したほか、発酵茶の生産に用いるドラム式萎凋機の開発・改良にも携わり、国内では難しいと言われていた香り高い烏龍茶の製造に成功した。多品種栽培と確かな加工技術を基盤にして多彩な商品を開発し、消費者との交流を重視したマーケティング活動を実践したことで、大幅な売上げ増加を実現し、茶業経営の可能性を広げている。

（２）女性の活躍

烏龍茶や紅茶の製造責任者といった茶製品づくりの中核に女性を積極的に登用するとともに、商品のパッケージデザインや SNS での情報発信も女性が中心に行うことで、消費者ニーズに寄り添いながら商品の魅力を的確に伝え、女性を始めとする消費者の購買に結び付けている。

（３）地域への貢献

周辺の茶農家へ茶の生産・加工に関する技術的アドバイスを積極的に行い、地域の茶生産を牽引してきた。法人化してからは、茶に興味のある若者や移住者の受け皿としての役割も果たしており、地域経済の活性化や雇用創出に繋げている。

・普及性と今後の発展方向

多品種栽培や高品質な茶生産、環境に配慮した有機栽培等の取組は、新たな消費者需要を掘り起こし、国内の茶業活性化にも貢献している。今後も計画的な設備投資や消費者の健康志向に応える商品開発等を継続し、更なる輸出の拡大も見据えながら、地域の茶生産を次世代へ継承することを目指している。